

予防接種

腎臓の病気ではワクチンの種類によって接種に制限がかかることがあります。1 つは病気が急性期の時、2 つめは治療にステロイドや免疫抑制剤などが使用されている時です。

一刻を争ってワクチンを接種する状況は稀であるため、主治医と相談して接種時期を検討することをすすめます。

- 不活化ワクチン（インフルエンザ、肺炎球菌、Hib(ヒブ)、4 種混合、日本脳炎など）

不活化ワクチンはステロイドや免疫抑制剤内服中でも安全に接種は可能ですが以下の点に注意が必要です。

- ① ステロイドの使用量によっては効果が減弱する可能性があります、接種が待てる状況であれば減量してからが良いでしょう。
- ② リツキシマブという注射薬を使用の患者さんは投与直前や投与後最低 6 ヶ月以内の接種は効果が減弱することがあります。
- ③ 免疫抑制剤を開始することは事前にわかる状況で急性期でなければ免疫抑制剤開始 2 週間前までに接種しましょう。

- 生ワクチン（麻疹風疹 MR、水痘、おたふくかぜ、ロタウイルス、BCG）

生ワクチンは免疫抑制剤内服中の接種はできません。免疫抑制剤中止後一定の条件を満たせば接種可能になります。しかし、水痘ワクチンに関してはステロイド内服中でも一定の条件を満たせば接種可能です。担当の先生にご相談ください。

- 最後に、病気が理由で定期接種ができなくても各自治体に申請をして手続きをとれば公費補助対象年齢外であっても公費補助のもと接種可能です。